

## 大牟田市まちづくり総合プラン（案）への意見募集の結果について

### 1. 市民意見募集の実施概要

- 実施期間 令和5年9月4日～9月29日
- 計画(案)の閲覧場所 情報公開センター（市庁舎2階）、総合政策課（市庁舎4階）、各地区公民館（中央、三川、勝立、三池、吉野、手鎌、駛馬）、市立図書館、市民活動等多目的交流施設等  
る、市のホームページ
- 意見提出方法 意見募集フォーム、郵送、持参、ファクスまたは電子メールで総合政策課へ提出
- 意見数 16名より36件の意見

### 2. 寄せられた意見の概要

No.	該当箇所	意見等	回答・考え方等
1	計画	大牟田市まちづくり総合プラン（案）は誰のために策定されているのか。昭和、平成、令和まで策定し、まだ実現していない。大牟田市まちづくり総合プラン（案）は誰のために策定されているのか。	まちづくり総合プランは、市民と行政とがまちづくりの目指す姿を共有し、総合的かつ計画的な市政運営を図るためのまちづくりの指針として、大牟田市総合計画条例に基づき策定しております。
2	計画	「大牟田市都市計画マスタープラン」（平成31年3月改定）の「測定・評価」とその「対策・改善」の報告（途中経過を含む）をいつの時点で、公表するのか、市は明示すべきである。	本市の都市計画マスタープランは、おおむね20年後（令和17年）に計画目標を置いて、長期的な都市づくりの方向性を示しています。その計画を着実に進行していくため、おおむね5年ごとに実施される国勢調査や都市計画基礎調査など様々なデータを基に評価・検証を行うこととしております。今年度（令和5年度）が計画策定からおおむね5年経過することから、現在評価・検証を進めており、評価結果についてはホームページで公表することとしております。
3	計画	「大牟田市まちづくり総合プラン2024～2033（案）」と「大牟田市都市計画マスタープラン」との継続性・連関性、および両者の連携的整合性を説明していない。財政的にも市民に対し高負担を要求する新たな都市計画マスタープラン（＝まちづくり総合プラン）を提出する前に、市はこの説明を市民に行い、認諾を受けなければならぬはずである。	計画策定にあたっては、多様な市民意見の反映による計画づくりを基本姿勢としております。広く市民の意見を聴くため、総合計画審議会の設置と市民委員の公募、市民意識調査、パブリックコメントなどを実施し、計画への多様な市民意見の反映による計画づくりを進めてまいりました。 まちづくり総合プランは、いただいたご意見を踏まえて成案化し、市議会における審議、議決を経て、決定いたします。

No.	該当箇所	意見等	回答・考え方等
4	計画策定の意義	12行目「・・・多様化・複雑化していく課題に対して、戦略的な視点をもって柔軟かつ適切に対応しつつ、若者の定住を促す雇用の創出の仕組みづくりを積極的に行い、市民と行政が目指す姿を共有しながらまちづくりを進めていくため、今後のまちづくりの指針となる第7次総合計画を策定します。」に変更(下線部分を追加)をお願いしたい。	「I 計画策定の意義」は、これまでの本市のまちの成り立ちや、今後のまちづくりの指針であるという総合計画の趣旨を端的に述べる章としているため、個別具体的な取組については、「IV 人口」や「VII 都市像実現のために取り組む施策」において述べることとしております。
5	ふり返り	コンパクトシティ・プラス・ネットワークという考え方が現実問題として言葉の意味が理解できないので、多くの市民が読んでも理解できるような表現に改めるべきと思う。	コンパクトシティ・プラス・ネットワークそのものについて説明を記載しておりませんでしたので、今回のご意見を受けて、修正を行います。
6	ふり返り	P7に本市の知名度向上とイメージアップ、移住定住の促進について、簡単でよいので、実績がわかるように記載すべきと思う。	本章においては、本計画期間において進めた各施策における主要な取組等について記載しており、ご指摘の項目だけ実績を記載すると、他項目との整合性がとれないため、記載しないものとします。
7	ふり返り	P7の行財政運営について、成果重視型で、行った実例を示すなどして、もっとわかりやすく記載すべきではないか。	成果重視型の行財政運営に資する具体的な取組事例を記載していないことから、「」など、より具体的な例を記載するよう修正いたします。
8	社会背景と課題	サン・アビリティの機能がおおむたアリーナに移ることとなると遠くて大変なため、サンアビリティはそのまま利用できるようにしてほしい。	サン・アビリティーズ大牟田につきましては、市公共施設維持管理計画に基づき、総合体育館整備に伴う統合・集約化する検討を行い、令和6年4月開館予定の総合体育館に、その機能を移転することとなっております。なお、跡地は障害福祉の向上につながる事業を行う民間事業者を活用してもらうよう準備を進めております。
9	基本目標	<基本目標2 新たな魅力や価値が創造され、人が集い、働き、にぎわいのあるまち>について、人が働く場所があって人が集い、その結果、にぎわいのあるまちになると思うので、目標名「人が集い、働き、にぎわいのあるまち」の表現の仕方について検討してほしい。	基本目標2においては、地域産業の振興や観光振興、農業振興に係る施策を記載しております。 今後の産業振興においては、これまで培ってきた様々な産業基盤を活かしつつも、イノベーションの創出や交流人口の増加に向けた取組みなどを通じ、新しい価値を創造していくことで、新たなまちの魅力を生み出し、持続的に発展することが必要と考え、目標名として、「新たな魅力や価値が創造され、人が集い、働き、にぎわいのあるまち」としております。

No.	該当箇所	意見等	回答・考え方等
10	人口	<p>少子高齢化で人口減少が早くなり、工業団地を作っても企業は来ないため、他市町村に勉強しに行き大牟田市を発展させてほしい。市内にある新幹線、JR、西鉄を活かすまちづくりを検討してほしい。</p>	<p>本市におきましては、企業立地が進む一方で、新たに企業が進出する工場適地が限られてきております。そのため、新大牟田駅産業団地の造成以降も、次期産業団地造成に向けた取組を進めることとしています。</p> <p>あわせて、本市は新大牟田駅や有明海沿岸道路、九州自動車道等の広域交通ネットワークが形成されていることから、今後のまちづくりにおきましても、このような交通の強みを活かすまちづくりを進めてまいりたいと考えています。</p>
11	人口	<p>市の人口について「昭和30年代半ばに21万人近く…2020年国勢調査で111281人」と表記しているが、直近数値として2020年の人口は(情報として時間が経ちすぎているため、住民基本台帳の1963年の22万人を超えた数字と、可能な限り直近の住基台帳人口を記載した方がよいと思う。既に11万人を切って10万台となり、ピークの半数も切ってる状態が端的に伝わる。</p>	<p>住民基本台帳は、市町村への届出を基に各市町村が個別に管理するデータですが、住民票を移さずに別の都市に移動しているケースや他の自治体の高齢者施設に入るケースなどがあり、住民基本台帳登録数と実際の居住者の状態に即した調査とされる国勢調査人口とは、時点によって大きな差が見られることがあります。</p> <p>今後の市政運営を進めるにあたり、様々なデータを分析する必要がありますが、例えば、広く知られる国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計においても、国勢調査人口が用いられております。そこで、本章における人口分析においては、国勢調査人口を基準としております。</p>
12	人口	<p>11行目「こうした人口減少の主な要因は、基幹産業の衰退と合理化等により、」に変更(下線部分を追加)をお願いしたい。</p>	<p>本市の人口減少の主な要因は、本市の主要な産業であった石炭産業が、基幹産業が衰退するだけではなく、その後の合理化も要因の一つとして考えられますことから、今回のご意見を受けて、修正を行います。</p>
13	人口	<p>17行目「近年における人口動態については、10年ほど前まで1,000人を超えていた年間の社会動態の減少数が、この数年はおよそ200~500人程度となるなど改善傾向にあります」について、減少数に( )書きで割合を追加表示すべきではないか。</p>	<p>当該部分の表記については、社会動態の減少数を、10年ほど前とこの数年とで比較しており、社会動態の減少幅が減少傾向にある事実を表記しています。</p> <p>なお、人口に対する社会動態の減少数を割合で示すと、10年前の平成25年で0.38%、5年前の平成30年で0.17%、令和5年においては0.35%となっており、実数と割合ともに改善傾向となっております。</p>

No.	該当箇所	意見等	回答・考え方等
14	人口	22行目「平成17(2005)年以降は上昇傾向が続いており、令和2(2020)年は国の1.33や福岡県の1.41を上回る1.53となるなど、国・県より高くなっています。」について、これは大牟田市が独自で合計特殊出生率向上の努力をしたからではなく、たまたま結果がそうになっているだけで、しかも九州は全体的に高い傾向があるので自慢に値しないので表現を改めるべき。	当該部分の表記については、本市における合計特殊出生率の数値を示す部分であり、国や県の数値より高いという事実を示しております。このことについては、本市の施策によるものであるのか、その他の影響によるものかは、ここでは言及しておりません。今回のご意見については参考とさせていただきます。
15	人口	27行目について、平成25年の3月時の本市の令和22年の推計人口を記載し、「上振れし明るい材料もでて来ています。」としていますが、根拠も不明確であり「明るい材料も出て来ています。」という表現は不適切であり改める必要がある。	当該部分の表記については、国立社会保障・人口問題研究所による最新の推計を前回の推計と比較し、推計人口が上振れしていたため、この表現としました。 しかしながら、今回のご意見を受けて、「明るい材料」という表現が誤解を生む可能性もあることから、「一定の上振れが見られる」という事実のみの記載に修正を行います。
16	施策 第1編第1章	施策推進の視点の視点4結婚の希望に向けた支援について、「事業者や団体等と積極的に連携しながら、」に変更(下線部分を追加)をお願いしたい。	ご意見のとおり修正します。 結婚を希望する人に対する出会いや交流の機会づくりにつきましては、官民連携により、“大きな縁でつながるまち love おおむた”プロジェクトに取り組んでおり、多くのカップルの成立に結びついています。今後も引き続き、事業所や団体等と積極的に連携しながら出会いや交流の機会づくりに取り組んでまいります。
17	施策 第1編第2章	基本方針について、「そのため、知育・徳育・体育のバランスのとれた教育を推進する」とあるが、食育は心身を健全に保つうえで主とする教育であり、「知育」、「徳育」、「体育」の原点であることから、この食育の重要性を前面に記載すべきではないのでしょうか。	第1編第2章(学校教育)の基本方針の記載に当たっては、国の第4期教育振興基本計画が掲げる目標や基本施策を参酌する必要があります。 食育は、国の第4期教育振興基本計画の目標の一つである「健やかな体の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成」のもとに位置付けられた基本施策の一つである「学校保健、学校給食・食育の充実」の中で取り扱われており、第1編第2章の基本方針は、このこと等を踏まえて記載したところです。

No.	該当箇所	意見等	回答・考え方等
18	施策 第2編第1章	現況と課題について、「新たな産業団地を推し進めていく <u>必要があります</u> ことが急務です。」に修正をお願いしたい。	現状として、新たな産業団地の早急な整備の必要性は認識していることから、ご意見を踏まえて、修正します。
19	施策 第2編第1章	現況と課題について、「 <u>地域企業の人材確保支援の工夫</u> とともに、 <u>新卒者の市内地元企業への就職を促す積極的なはたらきかけと高校生の地元企業への就職志向の有無</u> について、 <u>アンケート調査が必要</u> がありますです。」に修正をお願いしたい。	ご意見を踏まえて、修正します。 本市では荒尾市と連携し、市内企業だけでなく荒尾市の企業への就職を促す事業も行っていることから、「市内企業」を「地域企業」に修正します。また、これまでも就職ガイダンスに参加した高校生に対して、就職意向等のアンケート調査を行っており、今後も、高校生の就職志向の把握に努め、地元企業への就職を促す取組を積極的に推進してまいります。
20	施策 第3編第1章	現況と課題について、「本市では、市民や事業者と協働し、認知症を地域の中で支え見守るための体制づくりなどに取り組み、「高齢者に優しい福祉のまち」として国内外から注目を集めています。」とあるが、次に「ただし、 <u>今後は地域の見守りの負担が大きく、従来の方式の見直しが必要</u> です」の文章を追加されたい。	これまで、本市では認知症当事者の理解を深めるための取組を進めてまいりました。地域で安心して暮らし続けるためには、お互いに支え合うことが大切です。 仕組みづくりにあたっては、地域の過度な負担とならないことがその前提となるため、今後も、地域の皆様のご意見を聞きながら、「認知症であってもなくでも安心して暮らし続けられるまち」を目指し、「認知症」をきっかけとした、子どもから大人まで全ての人がそれぞれ地域の一員としてお互いに支え合う意識の醸成や仕組みづくり、地域づくりを進めてまいります。
21	施策 第4編第1章	国道208.209 沿岸道路を降りると、街路樹は雑草であふれており、人の往来の少ない場所では歩道すら埋まっている状態。大牟田市には夜間に車道に蓄積した残土を掃除する機関や機械はなく、残土は雑草を産む苗床であるため、整備してほしい。また、国道沿いの中央分離帯や花壇に花を植えてほしい。	国道については、国が管理しているため市では対応できませんが、市道については、植栽帯等の雑草の繁茂に対し、交通量が多く通行に支障のある路線を優先して、除草対応を行っております。なお、路面清掃車の導入については、今後の参考とさせていただきます。 また、国道の中央分離帯への花植えについては、交通量が多く、作業に危険が生じるため行われておりませんが、国道沿いの花壇には、市中心部の区間で、年1回市民ボランティアによるノースポールやパンジー等の花植え活動を行っております。

No.	該当箇所	意見等	回答・考え方等
22	施策 第4編第1章	甘木山公園、三池山の登山道の整備をお願いしたい。また、三池山の駐車場の整備についても検討してほしい。	<p>三池山の登山道の整備に関しては、訪れる登山者のために、登山道や遊歩道の管理が必要であることから、山の状況を熟知している地域住民・団体に委託し、適宜対応いただいております。</p> <p>また、周辺に来訪者が利用できる駐車場がないことから、駐車場の設置やトイレの改修について要望等をいただいております。そのため、令和4年度より、地元住民、ボランティア団体、関係機関、庁内各部署等と意見交換やヒアリングを行いながら、駐車場等整備に関するニーズ把握を行っており、今後、整備条件に係る調査を行いながら、整備の可能性について検討を進めていくこととしております。</p> <p>あわせて、甘木公園については、矢部川県立自然公園にも指定されていることもあり、現在ある遊歩道を今後も保全することとし、新たな登山道の整備については参考意見とさせていただきます。</p>
23	施策 第4編第1章	久福木のニュータウンから歩いていける距離に、ブランコ、すべり台、砂場、ドッチボールが出来るくらいの広場がある公園が欲しい。	公園整備については、参考意見とさせていただきます。なお、近隣に三池公園や白銀川調節池公園がありますので、そちらのご利用もお願いします。
24	施策 第4編第1章	基本方針について、「本市固有の貴重かつ良好な景観」とあるが、どの部分を指して言っているのか、明確に示す必要があるのではないと思われる。	本市には、臨海部の広大な干潟や干拓による農地など自然景観や農業景観、明治時代からの炭鉱景観やそれらに関連する工場景観、また、現代のくらしによる都市的景観など様々なものがあることから、特定の景観を示さない表現としております。
25	施策 第4編第1章	現況と課題について、何れも抽象的な表現に終始しており、現実から逃避した表現になっているので、現実を踏まえたそれぞれの具体例を示すべきではないか。	<p>全国的な課題か本市の課題か分かりづらいため、本市固有の課題については、「本市の」という表現を追記します。</p> <p>また、個別具体的な取組については別途作成するアクションプログラムで示してまいります。</p>

No.	該当箇所	意見等	回答・考え方等
26	施策 第4編第2章	<p>市内のバスの本数が減少しており、タクシーのなかなか捕まらない状況で、高齢者は困っている。倉永校区で運行している倉永生活循環バスを市内全域に運行してもらいたい。</p>	<p>路線バスの廃止や減便など、公共交通の利用が不便となった地域においては、地域住民の皆さんが主体となって検討された倉永生活循環バスや玉川校区の玉川のりあいタクシーが運行されており、市としてもその取組を支援しています。移動手段のニーズについては、市の中心部と中山間地域など地域ごとに多様なものがあると考えており、より効率的・効果的で持続可能なものとするためには、その地域にあった移動手段を検討する必要があると考えています。本市としましては、今後も地域の皆さんからの声を伺いながら、地域にふさわしい、地域の皆さんに利用いただけるような移動手段の導入を支援してまいります。</p>
27	施策 第4編第2章	<p>高齢化率が30%を超える本市にとって、高齢者による運転事故を減らすため、Maasによる解決を検討しているが、スマホをしっかりと使えるか分からない高齢者にGOアプリのようなタクシー配車アプリを利用させることは困難だと思う。</p> <p>高齢者に対して、スイッチを押すと登録されている住居にタクシーが来るボタンを高齢者世帯に配布するような方法を検討してほしい。</p>	<p>公共交通に係る運転手の不足や高齢化が進み、市内を運行するバスやタクシーそのものの台数の減少が見込まれるため、タクシーの予約等に係るDX化などの運行の効率化を図ることは欠かせないものと考えています。いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
28	施策 第5編第1章	<p>水害などの避難の知らせがきても高齢者は、少しの距離でも歩く事ができない人が多いため、安心して避難できる対策をお願いしたい。</p>	<p>災害発生時は、災害規模により最大50カ所の避難所を開設しております。あわせて、地域における独自の避難場所の設置に対し支援を行っており、校区によっては町内公民館や集会所だけでなく、民間事業者や社会福祉法人などと協定を締結し、避難者の受入を行っています。引き続き、市による避難所の開設に加え、地域独自の避難場所の確保に対する支援を行い、安心して避難できる体制づくりに努めてまいります。</p>

No.	該当箇所	意見等	回答・考え方等
29	施策 第5編第1章	施策推進の視点の視点1について、「…自分の身は自分で守る…」と市民が持つべき心構えが記されているが、この自助の考えで災害に向かい危険に身を晒す結果となって命を落とす例が出ている。ここは再考が必要ではないか。また、この部分を「職員一人ひとりが」と書き出し、市職員がどうあるべきかも付記してはどうか。	「…自分の身は自分で守る…」とは、「災害が発生する前に準備する」、「災害発生の可能性があるときに、巻き込まれないように早めに避難する」ため、個人でできることは個人で取り組むといった意味で表現しており、災害に向かっているのではなく、危険を避け、危険に晒されないようにすることが重要と考えております。ご指摘の「災害に向かい危険に身を晒す」ことの無いよう啓発に努めてまいります。  また、視点2において市の対応力について記載しており、市職員に関するものについては「水防本部・災害対策本部の機能強化」に含まれております。職員に対する研修も適宜行っているところですが、ご指摘を踏まえ、引き続き、計画を推進する際には職員一人ひとりの災害に対する意識・対応力の更なる向上を図ってまいります。
30	施策 計画第1章	筑後市やみやま市は駅のトイレ改修費の負担をしており、JR銀水駅のトイレが古くて暗く汚くくさいので、改修工事に市が財源確保をしてほしい。	JR銀水駅は、1日に約1,200名の乗降客があり、今回、このトイレの改修に向けて地域自らが行動を起こされ、学校や同窓会などの多くの関係者が連携された募金活動が行われました。  市といたしましても、このような要望を受け止め、JR九州とも協議を行いながら、JR銀水駅トイレの改修に向けて取り組んでまいります。
31	施策 計画第2章	基本方針について、「住み続けたい、住みたい、訪れたい、応援したいと思ってもらえる「選ばれるまち」の実現を目指し、地域の魅力を市内外へ積極的に発信し、 <u>若者の定住を促しUターン組の促進を推し進める。</u> 」に変更（下線部分を追加）をお願いしたい。	「若者の定住を促しUターン組の促進を推し進める。」は、同ページ【現況と課題】の2点目、インナープロモーションやアウトプロモーション、移住定住の促進に向けた取り組みのひとつであり、第2章の全体を示す【基本方針】で表すものではないため、文言の追加は行わないものとします。
32	施策 計画第3章	大牟田市の職員約900名のうち223名は市外通勤者であるが、市外通勤者は他市に税金を支払い、市の財源に協力していないといえる。これでは市民と職員の信頼関係ができないため、市外通勤者に大牟田市に住みたくない理由を聞いてほしい。	大牟田市に居住しない理由は、職員個人ごとに様々な理由があると思われませんが、市内居住に対して職員の理解、協力を求めていると考えております。



No.	該当箇所	意見等	回答・考え方等
33	施策 計画第4章	市役所は階段が多く、高齢者や足が不自由な人にとって大変なため、市役所のバリアフリー化を早く実施してほしい。	<p>本庁舎については、建設後、90年近くが経過し、バリアフリーへの対応に課題を抱えております。</p> <p>このような中、スロープやエレベーターなどを設置し、現状で可能な限りバリアフリーに努めております。</p> <p>更には、ご高齢の方や体に障害のある方を含め、来庁者の皆様がお困りの際は、職員が積極的に声かけし、ご案内するなど人的対応に努めております。</p> <p>しかしながら、現庁舎で更なるバリアフリー化を図るには限界があるため、現在検討を進めている庁舎整備の中で実現を図っていきたいと考えております。</p>
34	施策 計画第4章	利便性向上についてデジタル化を推進していくとあるが、保育料や水道料金の振込（口座振替）をネット手続きで行えるようにしてほしい。	<p>現在、口座振替申込については、本市に申込書をご提出いただくか、金融機関へ直接申し込んでいただいています。</p> <p>インターネットによる申込につきましては、取り扱い銀行が限定されるなどの課題がありますが、電子申請やキャッシュレス化の推進と併せて導入を検討いたします。</p>
35		北九州市小倉北区からの移住を予定しているが、どの市区町村も利点はあるものの、その利点は若い独身者や子供世帯に限られており、高齢者に対する利点が全く無いのが現状で、本格的な移住をためらっている。今の人口を維持し、できるだけ、老若男女の移住者が増えていく魅力的で災害や疾病そして孤立する人、空き地空家の少ない、市民全員が笑顔で健康的な暮らしを楽しむ事が出来るまちにしてほしい。	<p>国全体で人口減少が続くと予測される中、本市における人口減少をより緩やかにするには、人口移動の改善や合計特殊出生率の向上はもとより、若い世代にいかに住んでもらうかという視点による取組が重要と考えております。</p> <p>一方で、全国に先駆けて高齢化が進む本市においては、地域医療体制の構築や「大牟田方式」と呼ばれる地域認知症支援、フレイル予防や健康づくり事業など、高齢になっても、いきいきと安心して暮らせる環境づくりを進めております。</p>

No.	該当箇所	意見等	回答・考え方等
36		JR 大牟田駅の印象が暗く、待ち合わせ場所がないため整備してほしい。	JR 大牟田駅東口には、駅舎内に待合コーナーが設置されているほか、駅の外には観光プラザやシティコートがございます。現在、大牟田駅西口においては路面電車 204 号の設置やマルシェの開催によるにぎわいづくりが進んでいますが、今後は、東口におきましても、若者や民間事業者との連携によるにぎわい創出や交流機会の拡大等に取り組むこととしております。